



New! まちライブラリーの紹介

NO. 1081 (山口県 下関市)
HAPPY

創業50年の金物屋の一角にあるライブラリーは、本を通して、外国の人と地域の人が交流できます。日本語、韓国語、スペイン語の本も置いてあります。みなさんが心軽やかになれる場所を作りたいと思います。
• Instagram: fukushima_sangyo
• オーナー: 福嶋産業(株) 福嶋保子

NO. 1083 (大阪府 大阪市淀川区)
まちかど工房ほこまある

オリジナルグッズのデザインや制作を行う工房に本棚を置いています。カプセル式コーヒーは1杯100円。家事や買い物の合間に休憩がてらお越しく下さい。ほっこりまあるく、地域のみなさんと交流する場所を目指しています。
• Facebook: まちかど工房ほこまある
• オーナー: 林工房 林まさみ

NO. 1085 (北海道 千歳市)
ハンドメイドスイーツ@りんごP

ハンドメイドが大好きな仲間たちと作ったりんご箱の本棚です。不定期開催のイベントに合わせて、みんなの作品や参考にした手芸の本を飾っています。手しごとが好きな方、自分も何かしたいという方はぜひ覗いてみてください。
• オーナー: ハンドメイドスイーツ

NO. 1088 (徳島県 那賀町)
ひらの図書館

2001年に廃校になった旧平野小学校の木造校舎の一室を利用し、地域の交流拠点を目指しています。
• Instagram: hiranokko_tokushima
• オーナー: 藤本雪絵

NO. 1089 (大阪府 河南町)
まちライブラリー@くつろぎ自由研究室

寄付を募って古い薬局を改装したコミュニティスペースに本を置いています。日替りカフェが開かれたり、近所の子どもが宿題をしに来たり。多様で多彩な人たちが交差する、自由で面白い場に遊びに来てください。
• Web: https://asovivaviva.org/
• オーナー: NPO法人ASOVIVA

NO. 1090 (京都府 京都市中京区)
雅文庫

二条城が見える場所にある、本棚オーナー制の私設図書館です。同じ時を生きている誰かに、あなたの感じたことや見つけたものを、本を通して伝えて下さいませんか。もちろん、オーナーではなくても本を読んで頂けます。
• オーナー: 雅文庫

NO. 1091 (長野県 上田市)
さらみの立ち読み屋

カフェやイベントなどを開いている古民家交流拠点「さんかくのいえ」で、手離したくない本を誰かに読んで欲しくて並べています。本にまつわる様々なことで街につながりを作り、誰かの居場所になれたらうれしいです。
• Instagram: sankaku_no_ie
• オーナー: さらみ

NO. 1092 (奈良県 御所市)
プラムツリー文庫

読書家の和尚さんからの寄贈と、小さな時から「本の虫」だったオーナーの蔵書をお寺の中に置いています。吉野の山々と大和三山を望める部屋でゆったりと本を読んで、リフレッシュしてもらうことを目指しています。
• オーナー: 清水修子

NO. 1093 (兵庫県 明石市)
シェア本棚明石

古本喫茶です。コーヒーを飲みながら本を読むのもよし、本を買うのもよし、棚を借りてみるのもよし。小学生が一人でも来られるお店です。地元作家の作品を集めた月刊文芸誌も発刊しています。
• Web: https://sbook-s.com
• オーナー: 風杜歌男

NO. 1097 (京都府 京都市)
まちライブラリー@もう一つの椅子

京都を拠点とした移動型ライブラリーです。川べりで読書したり、昼寝したり、お茶を飲んだり、本を紹介しあったり、まちの風景を愛でたり。開催は不定期ですので、見つけたら、ふらりとお立ち寄りください。
• Web: https://scrapbox.io/machilibrary-chairforyou/
• オーナー: もう一つの椅子

NO. 1099 (大阪府 大阪市住吉区)
念々堂

代表は浄土真宗のお寺の副住職で、脳神経内科の医師でもあります。コーヒーを飲みながら本を読んだり、初めての言葉に出会ったり。地域の方の暮らしとともに、他では学べないことが学べる場所にしたいと思います。4月開設予定。
• Web: https://nennendo.com
• オーナー: 岸上仁

NO. 1100 (神奈川県 横浜市鶴見区)
ゆる〇文庫@ラムリア

レアールつくの商店街にある「みんなで作る本とアートの実験室 ラムリア」の一棚を借りて、「ねむり」や「ごはん」など健やかになれる本を置いています。棚から漂う木の香りの中で、ゆるゆるとした気分を味わってください。
• Web: http://ramuria.arimu.com/sample-page/
• オーナー: 石井裕子

NO. 1101 (東京都 西東京市)
まちライブラリー@おうちサロンひなた

おうちサロンひなた2階の一部屋でまちライブラリーを始めます。来られる方のお話を聞きながら地元の方にとって心地よい場、ふらっと寄れる場にしていきたいと思っています。この場所を彩るのは「本」を介しての出会いです。
• オーナー: おうちサロンひなた

NO. 1108 (徳島県 石井町)
晴れの日 文庫

晴れた日は、お散歩のついでお立ち寄りください。絵本や児童書、漫画、雑誌などを置いています。
• オーナー: 坂東勇人

NO. 1109 (秋田県 八郎潟町)
さんしゅう

毎週日曜日、ゆかいな仲間たちが運営している店です。アクティブシニアがお待ちしております。本を見ながら、色々とお話ししましょう。お茶っこを飲みに来てたんせ〜。
• オーナー: さんしゅう 澤石正廣

NO. 1110 (長野県 富士見町)
つながるりんご箱図書館

森の案内人である「やまねこ」と、つながりのある仲間たちがテーマごとにりんご箱一箱を持ち寄る図書館です。季節ごとに本やテーマが変わる様子も楽しめます。人と自然、人と人をつなぐ本や絵本などを揃えています♪
• Facebook: やまねこworks
• オーナー: 川村悦子

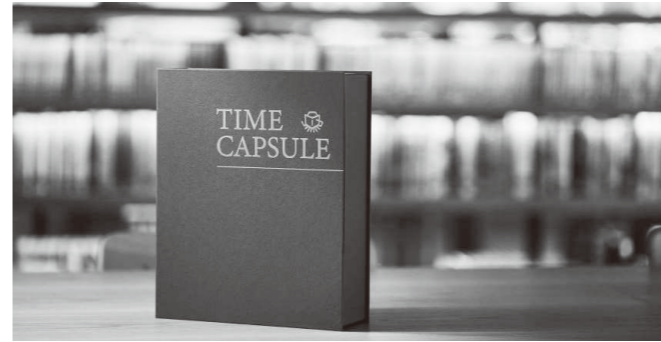
NO. 1111 (東京都 あきる野市)
みんなのライブラリー-Wa0! @山のスパイス

地域の方からお寄せいただいた児童書や絵本を中心にそろえ、本を読んだり借りたりできる小さな図書館です。月に1回、「みんなのひみつきちWa0!」というイベントも開いています。大人も子どもも、ふらりと寄ってね!
• Instagram: base_wao
• オーナー: 山のスパイス

NO. 1114 (岡山県 真庭市)
修徳館ライブラリー

岡山県北部の真庭市にあるコワーキングスペースに設置したライブラリーです。ビジネスに関する人文社会科学系の書籍・雑誌を約1,300冊揃えています。施設内ではセミナーやイベント、読書会など多目的にご利用いただけます。
• Web: https://www.shutokukan.biz
• オーナー: 株式会社まちと学びのイノベーション研究所

タイムカプセル本箱 大阪、北海道でもスタートへ!



昨年6月、まちライブラリー@MUGF PARK (東京都西東京市)の開館とともに始まった「タイムカプセル本箱」。日々のささやかな出来事や思い出など、暮らしの記憶を本型のタイムカプセルに詰めてライブラリーに所蔵するというプロジェクトです。少しずつではありますが、みなさんの思い出が集まり、ライブラリーの本棚に並んでいます。実際に、利用者の方が本箱に詰めた「残したいもの」をいくつかご紹介いたします。
(文・まちライブラリー@MUGF PARKスタッフ 藤井由紀代)

子どもの写真や通信簿、観劇のパンフレット 十人十色の宝物

ファーストシューズ、お気に入りだったおもちゃ、写真、手紙、絵や工作、通信簿から制服まで。家族の思い出の品々を入れる方がとても多いです。中には、お子さんへの「10年後の誕生日プレゼント」にするという方もいらっしゃいました。他にも、ママ友が集まり卒園記念の本箱を作るなどグループでの利用もあります。一方で、2024年の日常を詰

め込んだ方たちもいます。観劇のパンフレット、娘さんと飲んだワインのラベル、お菓子やビールのパッケージ、手帳、お土産で頂いた謎のキーホルダーなど。何気ないけれど、おもしろい!時が経つほど味わい深い暮らしの記録。開封日は、家族や仲間と集う記念日として楽しむ予定です。みなさん、「何を入れようか?」とあれこれ悩み、なかなか封入できないケースが多かったのですが、その悩みなつかしむ時間も楽しんでいたのが印象的でした。本箱には個々人の想いや個性がぎゅっと詰まっています。

@MUGF PARKでは、本箱を通じて地域の方の記憶や記録が集まるこの場所が、もう一つの「ふるさと」になればという想いがありました。なつかしく「帰りたい」と思える場所を持つこと、ライブラリーがその一助になれるかどうかはまだわかりませんが、タイムカプセル本箱が場への愛着を深めていることを感じています。

ブックフェスタ・ジャパンに合わせて9月に展開 多様な広がり期待

そして、新たな展開です。まちライブラリー@ちとせ(北海道千歳市)とまちライブラリー@もりのみやキューズモール(大阪市中央区)でもタイムカプセル本箱を始めることになりました!9月のブックフェスタ・ジャパンで開始する予定です。まちライブラリーの活動と同様に、本箱も地域や利用する方によって多様な広がりを見せるのではないかと思います。@ちとせ・@もりのみやでは、どんなタイムカプセル本箱が、どんなストーリーが生まれるのでしょうか。ご興味のある方は、是非ご参加ください。



タイムカプセル本箱とは

思い出の品々を本型のタイムカプセルに詰めて、まちライブラリーの本棚に一定期間ディスプレイする取り組みです(有料)。ご希望の利用期間を設定した後、開封していただきます。タイムカプセルのサイズは縦30cm、横24.5cm、奥行8cmです。

『「まちライブラリー」の研究—「個」が主役になれる社会的資本づくり』出版記念の集い ～みすず書房ゆかりの地、蓼科親湯温泉 みすずLounge&Barで開催

2024年2月25日(日) 蓼科親湯温泉 みすずLounge&Bar (長野県茅野市)にて、まちライブラリー提唱者・磯井純充著書の出版記念の集いが開催されました。全国から50人以上の方が集まり、まちライブラリーについて深く語り合ったイベントの様子をお伝えします。(文・まちライブラリースタッフ 川原紗英子)

会場となった蓼科親湯温泉は大正15年創業の歴史があり、3万5千冊の蔵書を取り揃えたライブラリーホテルです。蓼科は別荘地として文化人に愛された文学に縁が深い場所で、みすず書房の社主が茅野市の出身、岩波文庫の創業者はお隣の諏訪市の出身という出版業ゆかりの地でもあります。

折しも、磯井さんの新著はみすず書房からの出版です。みすずLounge&Barのみすず書房コーナーに著書を配架してもらうのが磯井さんの夢だったこともあり、蓼科親湯温泉のみなさまのご協力のもと、出版記念の集いを行うことになりました。

イベント当日は大雪が降り、足元が悪い中での開催となりましたが、北は北海道、西は山口県と全国から参加者が集まりました。ラウンジの窓に広がる雪景色と、本に囲まれた非日常の空間が相まって、お祝

いムードが溢れる温かな会となりました。記念講演では、磯井さんがこれまでのまちライブラリー活動のあゆみとともに、本の内容を解説しました。

ランチ会では、まちライブラリーの誕生を支えた磯井さんの若き師匠であり、一般社団法人まちライブラリー理事の友廣裕一さんが乾杯の挨拶を行いました。さらに、まちライブラリー @もりのみやキューズモールのサポーターで、大阪から訪れた高校生が、お祝いのマジックを披露して会場を盛り上げるなど、参加者同士の和やかな交流の時間となりました。

親湯温泉に宿泊した参加者の方とは、夕食会とラウンジでの語らいが続きました。夕食会では、お一人ずつの自己紹介で、本の活動へ想いなどをじっくり伺うことができました。ラウンジでは、組織と個人の関係、まちライブラリー運営の自由さ、まちライブラリー活動とは?など、話題は尽きることなく、磯井さんを囲み夜遅くまで語り合いました。

組織から離れた学び合いの場を作りたいと、まちライブラリーを始めた磯井さん。結果としてその夢が伝播し、まちライブラリーは1000カ所を超えるまで設置されました。今回の集いは、本のある空間と人との出会いをたっぷり分かち合う時間となり、個人の力を支え合う場としてのまちライブラリーの原点に立ち戻る会にもなりました。

出版記念イベント一覧

| 日時 | 場所/イベントタイトル |
|----------|---|
| 2月16日(金) | まちライブラリー@もりのみやキューズモール/『まちライブラリーの研究』異論・反論・オブジェクション! |
| 25日(日) | 蓼科親湯温泉 みすずLounge&Bar/『「まちライブラリー」の研究—「個」が主役になれる社会的資本づくり』出版記念の集い |
| 28日(水) | まちライブラリーオーナーズフォーラム(オンライン)/「新刊書を語る」 |
| 3月 8日(金) | 紀伊國屋書店大手町ビル店/磯井純充・舟木彩乃トークセッション:「個」の力を社会に活かす、こころと組織のつくり方 |
| 9日(土) | ぎふメディアコスモス/「まちライブラリアン養成講座」 |
| 20日(水) | BASE生駒/「まちライブラリーをヒントにつなごう」 |
| 21日(木) | 丸善&ジュンク堂梅田店/磯井純充x福嶋聡『「まちライブラリー」の研究』刊行記念、スペシャル対談—まちライブラリーを育てた大阪で“館ちゃんは、本になった” |
| 24日(日) | まちライブラリー@ちとせ/『「まちライブラリー」の研究』について話す会 |
| 25日(月) | ジュンク堂書店池袋本店/磯井純充x小谷輝之トークイベント:50代からのスタート、本のある居場所づくり～人生の糧となる活動 本屋とまちライブラリー～ |
| 4月10日(水) | ガーデンズ千早/まちライブラリートークイベント 花井裕一郎氏企画「コミュニティ型商業施設とまちライブラリー」 |
| 11日(木) | ブックキューブリック箱崎店/磯井純充x花井裕一郎『「まちライブラリー」の研究「個」が主役になれる社会的資本づくり』刊行記念トークイベント |
| 12日(金) | SYNTHビジネスエアポート 西梅田ブリーゼタワー/磯井純充x中川和彦 「スタンダードブックストアから学んだまちライブラリー」～大阪のいちびり精神が育くむ豊かな「生活文化」～ |
| 18日(木) | まちライブラリー@MUGF PARK/前野隆司x磯井純充トークセッション:「ウェルビーイングな活動とまちライブラリー 生き方の科学とは」 |
| 20日(土) | ワークラボハヶ岳/竹林一x磯井純充「社会活動におけるイノベーション」 |
| 20日(土) | 蓼科サロン/竹林一x磯井純充「個を社会で生かす社会づくり～大学、企業、まちライブラリーの挑戦～」 |
| 25日(木) | 東京・神保町 ブックハウスカフェ/磯井純充出版記念トークイベント(ビーフとチーズの特製カレーランチ付き) |
| 6月13日(木) | 東京・文京区 カフェ麹中/みすず書房新刊記念「友廣裕一、磯井純充対談 若き師匠との邂逅と軌跡」 |

まちライブラリーオンラインゼミ (事前申込制、有料)

- 4月 8日(月) 第1回「第1章から第5章を読む、語る」
- 5月 6日(月) 第2回「第6章 場づくりについての分析、考察」
- 6月 3日(月) 第3回「第7章 ジェイコブズ、宇沢弘文、アンニョリ、スミスからの考察 その1」
- 7月 1日(月) 第4回「第7章 ジェイコブズ、宇沢弘文、アンニョリ、スミスからの考察 その2」
- 8月 5日(月) 第5回「第8章 個が生きやすい社会への鍵を考える」

詳しくは、こちらをご覧ください

<https://machi-library.org/what/detail/9576/>



「個」から生まれる「生活文化資本の世界」新刊通じて新たな地平線発見

拙著『「まちライブラリー」の研究 「個」が主役になれる社会的資本づくり』(みすず書房)の「発刊の集い」を、長野県茅野市にある蓼科親湯温泉にて行わせていただきました。JR茅野駅からバスで40分ほど離れた蓼科山麓にある温泉宿ですが、「みすずLounge & Bar」と称した広いロビー階には3万5千冊もの蔵書が配架されています。宿泊棟への回廊両側には、岩波文庫の赤本、青本が迎えてくれます。2月25日(日)、大雪が降る中で総勢54名の会になり、私個人にとっても、まちライブラリーにとっても新たな地平線が見えてくるきっかけになったと思います。みすず書房の創業者だった故・小尾俊人氏のご息子にもご参加いただき、「亡き父も喜んで」と言っていた感無量でした。

この「発刊の集い」を機に新刊にまつわるイベントを各地で多数実施し、またこの原稿を書いている時点でさらに多くのイベントを準備しています。少しやりすぎではと思いつつも、この機会に皆さんにこの本の意図をお伝えし、それに対して様々なご意見をいただき、それぞれに「本のある場」について語り合う集いをやっていただければと考えたからです。また、自分たちのまちライブラリーの活動を振り返る機会を持たれると、さらに充実したものになり、「個」が生き生きした地域が生まれるように思います。

さてこのように普及啓発的な活動をしているなかで、私自身もさらな

る地平線が見えてきたような気がします。紀伊國屋書店大手町ビル店でお話をしていた折に、私がまちライブラリーは「生活資本」であり、宇沢弘文先生の言われる「自然資本」「インフラ資本」「制度資本」の3つの「社会的共通資本」に加えて4つ目として「生活資本」があるという仮説を話しました。これに対して参加されていた元大学の学長から、「文化資本」と呼んで、江戸時代の寺子屋などの研究をしてはどうかとアドバイスをいただきました。江戸時代には、昌平校や藩校のように武士階級が行く学校以外に、庶民が庶民の手で作られ、運営してきた寺子屋が日本人の識字率や社会行動規範に大きな影響を与えたというのです。少し調べてみただけでもその数は、全国で15,512校(吉田太郎「寺子屋における歴史教育の研究」より)にも上ったというから驚きです。このような草の根の活動があつてこそ、「高札」を読める庶民がおり、商いを行える商人がたくさん誕生してきたと推察されます。明治になり、これらの基礎的活動が明治維新を支えたのもうなずけます。

寺子屋の多くは、制度や藩主の支援でできたのではなく、子どもに少しでも良い生活をさせたいという親心から生まれたということです。また、寺子屋の行事が時に単調な生活への刺激であり、楽しみであったことも浸透する理由だったようで、まちライブラリーに共通しているように感じます。

「まちライブラリー」も制度や組織に頼らず、市井の人たちのアイデアと行動で1100カ所を越えるまで設置されるようになりました。その結果多様で個性的な活動が、日本全国に広がったと思います。本がある居場所をつくりその場を良くしたいという気持ちだけでなく、面白そうで楽しそうな雰囲気伝播の背景にあつたのだと考えています。

そして次なる挑戦は、大小さまざまな文化活動の連携による「生活文化資本」の醸成です。ともすれば大きな劇場や博物館、ミュージアムや図書館をつくる街が文化的になると思われがちです。しかし、生活の中でじわじわと分散した文化的拠点や産業構造が、まちの文化をつくっていくような気がします。戦後、服の供給が十分でない時代にミシンと生地を買い、自分たちで服を作り、多数の洋品店が誕生します。さらにそれを支えた洋裁学校があり、その中からコシノ姉妹が生まれました。日本をファッション先進国にした背景には、このような裾野の広さと横の展開があつたと思います。本も同様で、大学や専門学校が集中したエリアに本屋が集積し、書き手である学者や文化人を求めて出版社や印刷会社が集まってきたように様々な人達が関与する環境醸成が必要と言えるのではないのでしょうか。まちライブラリーという活動が、新たな「生活文化」の起爆剤となっていくような夢を見えています。皆さん、改めてご一読いただき、それぞれの活動を楽しんでください。

2024年3月

まちライブラリー提唱者 磯井純充

MSJ00657@nifty.com



講演する磯井さん



配架された本